来世はどちらで？

研究開発部
緒方　彩子

＜もし、生まれかわったら＞

「もし生まれかわったら、女性と男性のどちらになりたいか？」と聞かれたことがある人は多いのではないだろうか。文部省統計数理研究所国民性調査委員会では、5年ごとに「国民性調査」を実施しており、1958年以来「もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに、生まれてきたいと思いますか？」と問うてきた。

男性が「次も男性に生まれかわりたい」と思う割合は、調査開始以来、ほぼ9割を維持しており、「次も男性に生まれかわりたい」と思っている男性がほとんどのようだ（図表1）。

対して女性で「次も女性に生まれかわりたい」と思っている人は7割以下にとどまっており、男性に比べると低い水準にある。そして「次は女性に生まれかわりたい」と思っている男性は4つのカテゴリーの中で最低値であり、「男性に生まれかわりたい」と思っている女性は、減少する傾向にあるものの、直近の調査でも3割程度おり、「来世は（も）男性」が相対的に人気のようだ。

＜女性をめぐる厳しい環境＞

実際に、我が国は男性に比べ女性には厳しい環境にあることが調査にも現れている。図表2は総理府が行った「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果である。「家庭生活」などの6つの分野で「男女は平等になっていると思うか」と聞いた結果、「平等」と答えた者の割合が最も高い分野は「学校教育の場」が63.9%であった。しかしながら、残りの5つの分野を見ると、ほぼ半数から半数以上が「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と回答している。

この結果から考えると、女性は男性に比べまだまだ社会的には弱い立場にあり、そのことが女性に「次も女性に生まれかわりたい」と思うことを躊躇させる原因になっているのかもしれない。

また1998年の「国民性調査」では、今の日本は、ひとくちで言って男と女では「どちらの方が苦労が多いか」（図表3）「どちらの方が楽しみが多いか」（図表4）を尋ねている。

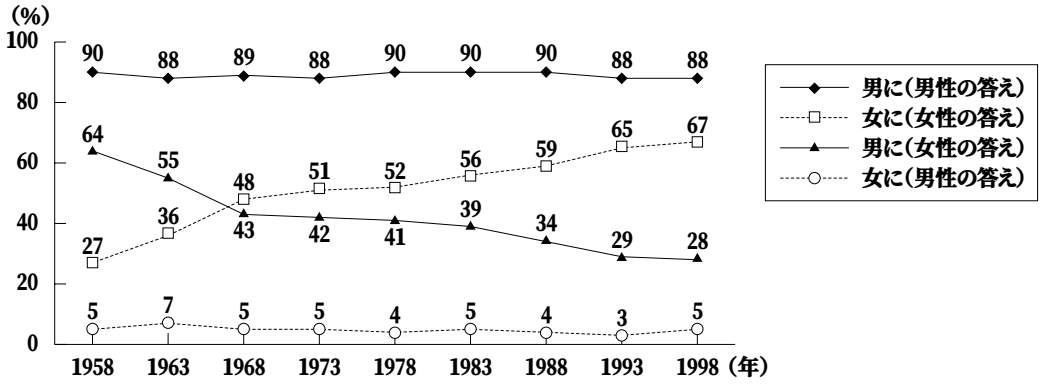
「苦労」部門では、「男の方が苦労が多い」が44%、「女の方が苦労が多い」が36%。女性の回答者だけに限っても「男の方が苦労が多い」が「女の方が苦労が多い」を1ポイント上回っていた。「楽しみ」部門でも「男の方が楽しみが多い」との回答が43%、「女の方が楽しみが多い」との回答が34%と男が多かった。男性は女性に比べ、苦労も多いが、楽しみも多いと考えている人が多いようだ。

＜未来に期待を＞

ところで、このような状況にありながら、「女性に生まれかわりたい」と思う女性は実は増えている（図表1）。調査開始時にはわずか27%にすぎなかった「女性に生まれかわりたい」女性は、98年には67%と約2.5倍に増加した。同時に、「楽しみ」や「苦労」についても、「女性の方が多い」との回答は上昇傾向にあるが、男性のそれは下降傾向にある。

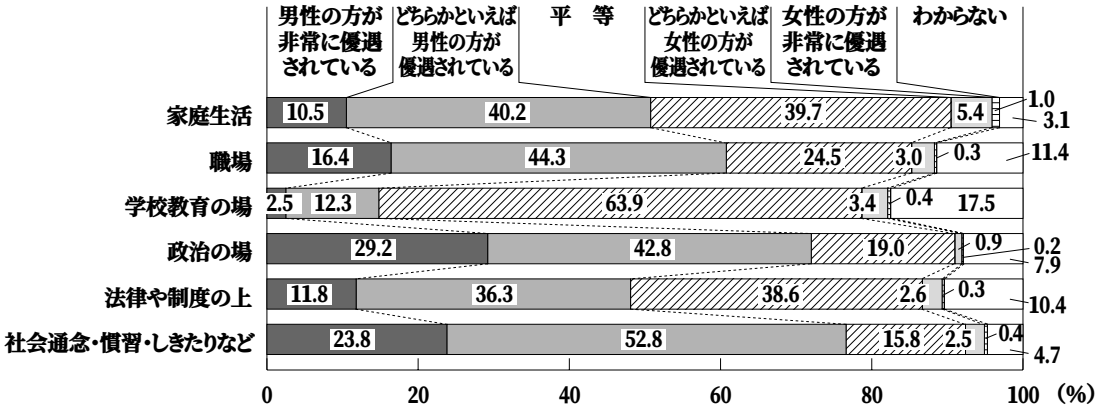
「生まれかわってもやはり女性でありたい」と思う女性が、男性並みになる時代が来るかもしれない。そうなった時、我が国は真の男女平等社会を迎えていることを願いたい。

図表1　もういちど生まれかわるとしたら、どちらになりたいか



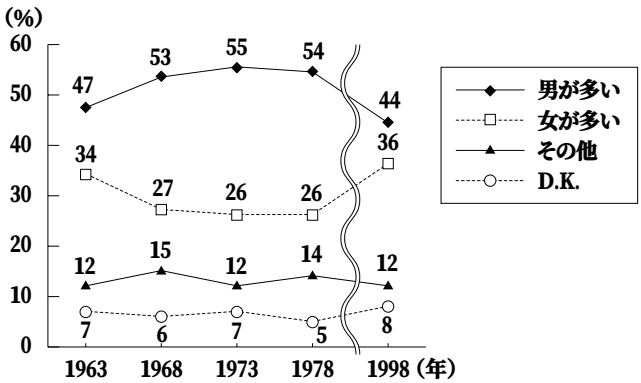
注:調査時点は1998年10月(回収サンプル数2680)、男女ともに「わからない」「その他」の回答は除外
資料:統計数理研究所国民性調査委員会「第10次国民性調査」(1999年3月)をもとに作成

図表2　各分野の男女の地位の平等感



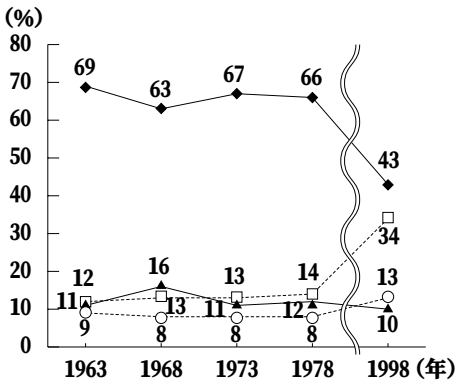
注:回答者は全国20歳以上の者(有効回収数3378人)、調査時期は2000年1月27日～2月6日
資料:総理府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2000年5月)

図表3　男性と女性、苦労はどちらが多いか



注:D.K.は「Don't Know」の略
　83～93年にこの設問は行われていない
　他は図表1に同じ
資料:図表1に同じ

図表4　男性と女性、楽しみはどちらが多いか



注:図表3に同じ
資料:図表1に同じ